

総合：やや易化。

全体として語彙レベルも難しいものは多くなく、例年通りの問題形式であった。全体では、昨年に比べてやや易しめと感じる。ただ、第3問Aのトピックが少々親みづらいものだったことや、第4問の出題形式に多少の変更が見られたことから戸惑った受験生はいたかもしれない。以上を考慮すると、平均点は大きな変化はないが昨年よりはやや上がる可能性がある。

これから受験生になる人たちには、まずは語彙を増やすことを頑張ってもらいたい。その上で多くの英文に触れること。音声付きのものがあれば大いに活用し、日ごろからネイティブの音声に慣れ、リスニングやスピーキングの力も向上させることが効果的である。

以下、設問別概観と対策。

第1問

発音・アクセント問題。例年通りの出題。規則性を学ぶのと同時に、日ごろからネイティブの音源を活用して正しい発音やアクセントを自然に身に付けられると理想的だ。書籍に付属する音源を活用すれば利益が大きいだろう。

第2問

A： 例年通りの出題内容であった。文法、語彙、語法問題には1冊の問題集を何周も繰り返し、一通りの知識を確実に身に付けておきたい。

B/C： 文の基本文型を意識して、対話の流れが自然になるように英文を組み立てる事が大切である。

第3問

A： 不要文選択は、第6問にも通じるが、1パラグラフ1アイデアである。文の趣旨は何かを常に意識した読解を心がけた上で、流れに反するものを選択すること。

B： 発言要約は、語数が減り、比較的平易な英文で書かれているが、2名の意見や全体の意見をまとめる問いでは、いずれかの意見に引きずられてしまわないよう視野を広く持って読み取ることが大切であった。

第4問

A： データ読み取り問題。昨年と比べて、グラフではなく表となったこと、また表の項目名を答える問題が、項目からその内容を選ぶものに逆転してしまった事に戸惑った受験生もいただろう。いずれにしても、丁寧に読み、情報を確実にとらえることが求められる。

B： 図表広告問題。設問を先に読み、それに対応する情報を図表全体から素早く正確に読み取る必要がある。

第5問

昨年のようにドキリとさせられる内容ではなく、典型的な物語文で易しく、心穏やかに読めたのではないだろうか。設問も比較的平易であった。問5で主人公の経験を通しての学びについて問われるが、しっかり本文から読み取り自分の感情に左右されないよう注意が必要。ちなみにこれは現代文にも言えることである。

第6問

段落の要旨をつかみ、全体のテーマは何かを正しく捉えることに尽きる。問の選択肢は本文とは異なる表現に言い換えられているので、主旨を正確にとらえることが要求される。文章自体は例年と比べるとやや易化。